

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775802198		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家平野		
所在地	大阪府大阪市平野区加美西2丁目6番13号		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年コロナ禍が終息しつつあり外出や外食レクリエーションなど自由にとれつつあります。施設内でも楽しさや親しみやすさに重点を置き、レクリエーションの機会を増やし日々の生活に変化や刺激を与え、生き生きとした生活を過ごしていただくように考え、利用者様主体で物事を考え、一緒に考え楽しむ事が出来る事を第1に考え日々の生活の援助を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年1月20日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にあり、施設内は白と木調を基調とし畳スペースもあり、落ち着いた家庭的な環境である。利用者と一緒に制作した季節の飾りつけや書道の日の季節に因んだ作品を飾り、季節感を取り入れている。毎食手作りの食事を提供し、季節の行事食・食事イベント・おやつイベントを毎月行っている。コロナ禍の影響はあるが、散歩や外出、ボランティアの受け入れ等を徐々に再開し、地域とのつながりが持てるよう努めている。地域の職員が多く定着も良く、地域・利用者・家族と馴染みの関係が築けている。オンライン研修による研修機会の確保、全体会議・フロア会議・各種委員会の定期開催、P DCAサイクルに基づいたケアマネジメントも継続されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのテーマを決め、それを業務に取り組みんでいます。	事業所の期毎のビジョンを作成し、事業所ビジョンの「地域交流」の項目に地域密着型サービスとしての取り組みを具体的に表明している。事業所ビジョンを事務所に掲示し周知を図っている。事業所ビジョンをもとに各ユニットの期毎のテーマを作成し実践につなげている。	事業所ビジョンやユニットテーマの実践状況を振り返る機会を設ける等、実践に向けた具体的な取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時々お話しする機会はあれど交流は少なめ。	事業所の買い物に地域の店舗を利用したり、発注によるパンの訪問販売を利用する等、可能な形で地域とのつながりを継続している。利用者との散歩や買い物を再開し、出会った地域の人と挨拶や言葉をかわしている。演奏ボランティアの受け入れも再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流機会が少なく実施できておらず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の課題やご家族の要望を共有し話し合いを行い、向上に活かそうとしています。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成委員とし、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。入居者状況、事故・ヒヤリハット事例、行事・イベントの実施と予定、その他事業所の取り組み等を報告した資料、利用者の生活や行事の様子を掲載した写真シートをもとに報告し、参加者から意見・情報を収集している。「虐待防止・身体拘束適正化検討委員会」「感染症対策委員会」も開催している。資料と議事録を全利用者家族に郵送し報告している。閲覧ファイルを玄関に設置し、直近の議事録を公開している。	地域代表・知見者の参加が得られる取り組みが望まれる。また、家族の参加が困難な状況であるため、参加への呼びかけを継続する等、参加が得られるよう取り組みが望まれる。

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に地域包括などを訪問し連携を図るように努めています。	運営推進会議への参加や定期的な訪問等を通して、地域包括支援センターと連携を図っている。市役所の生活保護課・介護保健課と連携し、利用者支援を行っている。市からの情報や市への報告により、適正な運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修及び施設内での身体拘束をしないケアの徹底、運営推進会議内での身体拘束に関する委員会を毎月立ち上げ状況共有しています。	身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、運営推進会議の中で「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を2ヶ月に1回実施している。委員会では、事例がないことを確認し、防止に向けた事業所の取り組みを説明している。議事録はパソコン内で閲覧し、周知を確認できる仕組みがある。年間研修計画に沿って、「身体拘束適正化」に関するオンライン研修を年2回実施している。全職員が視聴し、システム内で受講を確認できる仕組みがある。各ユニットの入り口は自動ロックされているが、外出の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での虐待防止の研修を年2回行い、他施設での虐待事例も取り入れながら共有し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人との関りも少なくない為、実践を通じて権利擁護について学ぶ機会があります		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料に基づいて説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設面会の際に意見を確認し、各ユニットや全体会議の中で共有し内容の検討を行っています。	日々の会話の中で利用者の要望を把握し、介護記録で共有し(可能な限り)個別に対応している。家族の面会時や電話連絡時に近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。写真を多く掲載した各ユニットの「たのしい家新聞」と個別の「お便り」を毎月、運営推進会議の議事録と資料を2か月に1回郵送し、家族が意見・要望を出しやすいように取り組んでいる。法人が年に1回家族アンケートを行い、結果を事業所に伝えて反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス、不定期の面談や年一回の人事などで話し合いの機会を確保しております。	全体会議とユニットカンファレンスを毎月実施している。全体会議では、事業所の業務や行事等について共有、検討している。ユニットカンファレンスでは、ユニットの利用者についての情報共有や検討、業務・行事等についての検討を行っている。会議前に、ユニットリーダーや介護支援専門員が職員の意見を収集し、参加できない職員も含め意見を反映しやすいように工夫している。議事録を各ユニットで回覧し周知を図っている。日々の検討事項については、その都度職員の意見を集約して検討し、介護記録等で共有している。管理者が、定期的には年に1回人事考課面談を行い、随時にも面談し、個別に意見を聴く機会を設けている。法人が年1回職員アンケートを実施し、職員が法人に意見を伝える機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期ごとに各自で目標設定したり、誰伸び精度や段位技能認定などで定期昇給や評価機会を設定しています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や技能段位認定等において人材育成の機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者の会議や施設訪問を通じて他施設のサービスに触れる機会を確保しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談の段階で入居後の生活に対しての不安や要望について情報収集し、不安解消できるよう説明を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な点や要望を確認し、協力出来る事に関しては何でも行いご本人やご家族の負担軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談時にグループホーム入居が最適でないと思われる事柄に関しては、包括支援センターや別サービスの紹介を行う事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人一人に役割を担って頂き、助け合いながらの共同生活をイメージしたケアを提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との時間を優先して生活して頂けるように支援しています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時にフェイスシートに生活歴を記載しておき、ご本人の要望に沿った形での外出等を行い、馴染の場所への訪問等を行っています。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「フェイスシート」の「生活歴」欄等に記録している。家族・友人・知人とのフロアや居室での面会を再開し、馴染みの人との関係継続を支援している。電話や手紙の支援も行っている。家族等との外出も再開し、馴染みの場所にも家族等と外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士での交流がスムーズにいかない場合はスタッフが間に入る事で円滑な交流が出来るように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の相談窓口としていつでも相談していただけるよう説明しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの要望等を情報収集しニーズの把握に努めています。	利用者の思いや暮らし方の希望・意向を、「フェイスシート」の「生活歴」「趣味・趣向」「本人及び家族の主訴や要望」欄に記録している。日々のコミュニケーションで把握した内容は、「介護記録」やカンファレンス等で共有している。把握の困難な利用者については、利用者の表情や反応等から汲み取り、意向に沿った支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りを随時行っています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の身体的な状態や精神面の状況に合わせたケアの提供を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスでの情報共有を行っており、ご家族への報告や相談も行っていきます。	「フェイスシート・アセスメントシート」「ケアチェック表」をもとにサービス担当者会議を開催し、初回の施設サービス計画書を作成している。初回は概ね1ヶ月後に、その後は、定期的には3ヶ月毎に「評価表」でのモニタリング評価と「ケアチェック表」での再アセスメントを実施している。施設サービス計画の見直しは、必要時は随時、定期的には6カ月毎に行っている。見直しの際は、「評価表」でモニタリング評価を、「ケアチェック表」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。主治医の意見は往診時に聴き、サービス担当者会議内で共有し反映している。サービスの実施状況は、タブレット内に記録し、職員間で共有している。	施設サービス計画の内容の周知と、計画に基づいた実施が明確になる介護記録の作成の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きの記録として日々の状況を記録しており、申し送り等での情報共有に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務優先で無く入居者様の想いに寄り添った形でのケアの実践に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源の把握や発掘を行いながら、入居者様の生活に繋げていけるように支援しています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医での対応だけでなく、馴染の専門医との関係も継続し連携を行っています。	協力医療機関から定期的な内科の往診と希望に応じて歯科の訪問診療を、また、週1回の訪問看護が受けられる体制がある。他科については外部受診となり、家族との通院を基本としているが、家族の状況に応じて事業所が対応している。受診の記録は、タブレット内の往診記録・通院記録に記録し、訪問看護の記録は看護記録に記録されている。職員間の情報共有は、「申し送りノート」等で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問時にお互いが感じている課題等を共有しており、主治医・看護師・介護職員との連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時の同行や入院時には週に1回は面会に行きご本人や看護師からの状態確認を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に終末期のあり方についての意識を共有し、医療職との連携で支援しています。	契約時に、重要事項説明書内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」に沿って説明して同意を得、「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」で意向確認もっている。終末期を迎えた段階で、主治医・事業所が家族に状況を説明し、「意向確認書」で家族の意向を再度確認している。家族に看取り介護の希望があれば、看取りに向けた施設サービス計画を作成し、主治医・訪問看護師・薬局等と連携し、家族の意向に沿った支援を行っている。オンライン研修の年間研修計画に沿って、「看取り」研修を実施している。	

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修や毎日の業務を通じて事前の準備をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練時に消防隊からのアドバイスをもらったり、地域の防災訓練に参加しています。	消防訓練を年2回実施している。令和5年度は、4月は夜間想定で、11月は昼間想定で総合訓練を実施し、可能な利用者も参加している。11月は消防署立ち会いで実施し、AED訓練も実施した。実施後は報告書を作成してパソコン内で閲覧し、周知を確認する仕組みもある。6月には、オンライン研修でのBCP研修と、BCP訓練を実施している。備蓄は、法人が支給し、消費期限等の管理も行っている。	運営推進会議の活用等により、地域との協力体制を築くことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを基本の柱とした認知症ケアを実践しています。	「接遇マナー」「認知症ケア」「人権及び虐待・身体拘束防止」等のオンライン研修を実施し、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応について学ぶ機会を設けている。研修の中で、年2回「虐待の芽チェックリスト」をもとに自己点検する取り組みもある。気になる言葉遣い等があった場合は、管理者が、その都度、または、全体会議で注意喚起している。排泄・入浴介助時等のプライバシーへの配慮は、周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定語は使わない事を意識して日々のケアに取り組んでいます。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせたケアの提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容面や定期的な理美容の機会を確保し、身だしなみ等に注意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなどを一緒にしたり、リクエストを聞いて買い物から携わっていただけるような日も作っています。	献立と食材が委託業者から届き、各ユニットで調理して提供している。献立に、季節の食材や行事食が取り入れられている。ムース食は委託し、その他の食事形態にはユニットで対応している。調理の下準備・食器洗い・お盆やテーブル拭き等、利用者の得意や好みに応じて参加できるよう支援している。毎月、季節の行事食・食事イベント・おやつイベント等を行い、誕生日はケーキで祝う等、「食」がより楽しめるよう工夫している。個別の夕食レクリエーションも徐々に再開している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	形状やトロミなどご本人が食べやすい形での提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な訪問歯科による口腔内のチェックを受けています。必要に応じて口腔ティッシュ等の使用を行っています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。	重度化が進んでいるが、座位がとれる場合は、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、安眠と安全を考慮し利用者個々に応じた介助方法で支援している。利用者個々の排泄状況や排泄パターンは、タブレット内の排泄記録や介護記録で把握・共有している。介助方法や排泄用品について検討事項があれば、管理者・ユニットリーダー・介護支援専門員が職員の意見を集約し、タブレット内の介護記録で情報共有しながら現状に適した支援につなげている。ドアの開閉、声かけ誘導時等、プライバシーへの配慮を職員間で周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動・腹部へのマッサージ等薬だけに頼らない排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別で入浴回数や入浴時間を調整しており、楽しく気持ちよく入浴できるように入浴剤を複数選んでいただくなどの対応もを行っています。	一般個浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。入浴予定に沿って週2回の入浴を基本としているが、体調や気分に応じて柔軟に対応している。実施状況はタブレット内の入浴記録と介護記録で把握・共有している。身体状況に応じて、シャワー浴・足浴でも対応している。入浴を拒否される場合は、タイミング・言葉かけ等を工夫し対応している。複数種類の入浴剤から選べる等、入浴をより楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のタイミングでの就寝や起床、ベッドの角度や室温調整などを行い快適に過ごして頂けるよう支援しています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や薬効については一覧できるようになっています。服薬内容の変化があった場合には状態変化が生じる事を念頭に置いたケアを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に役割を提案し、役割を果たす事で周囲との関係が持てるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿った形で外出できるようにしており、個別対応・集団対応問わず外出機会の確保に努めています。	重度化に伴い個人差はあるが、天候や希望に応じて近隣や公園への散歩、薬局での買い物等、日常的な外出支援に努めている。家族との外出、初詣・花見等の外出行事、個別の夕食レクリエーション等を再開し、徐々に外出の機会が増えるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて自己管理されている方もおられ、預り金に関してもご本人の要望に合わせて使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りに関してはご家族への説明を行い、電話を掛けたり受けたりする事が出来ています。		

グループホームたのしい家平野

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けを行い施設内でも季節を感じられるようにしています。	各ユニットの共用空間は、白と木調を基調とし、テーブル席・ソファ・畳スペースがあり、落ち着いた家庭的な雰囲気が感じられる。温湿度管理・消毒・換気・掃除により、安全に快適に過ごせるよう環境整備を行っている。利用者と一緒に制作した季節の飾りつけや、書道の日を書いた季節に因んだ作品を飾り、季節感を取り入れている。利用者の状況に応じて、洗濯物たたみ・調理の下準備・食器洗い・お盆拭き等の家事に参加できるように支援し、生活感を取り入れ役割づくりを行っている。ユーチューブやカラオケ等も活用し、午前・午後にレクリエーションを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内やリビングのソファなどで自由に過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限は火器、刃物のみとしており、出来るだけご自身の馴染みの物を多く持ち込んで頂けるようにお願いしています。	各居室に、ベッド・クローゼット・緊急用コールボタン・エアコン等が設置されている。たんす・テーブル・椅子・テレビ・ミシン等の使い慣れた家具や道具、家族の写真等が持ち込まれている。職員から贈られた誕生日カード等も飾られている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族と相談しながら家具や道具の数や配置を変更し、安全に混乱なく過ごせるよう配慮している。居室担当職員を設け、家族に連絡しながら、衣替え・物品の補充・環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由な行動が制限される事が無いように、安全で分かりやすい環境作りを行っています。		